千里山 の記念碑

「辰巳経世記念 婦 人 Ø

集 部

発 ·里山 記念碑」をよくご存じと思います。 Hに住まれ た皆さん は第一噴水にある「千里 Ш

同人誌「雨月」主宰者の方々の句碑が並びます。いと思います。千里山で六十年以上発行している俳句また、千里寺境内にある句碑をご覧になった方も多 れました。 この二つは二〇一三年開催の「千里山今昔展」で紹介さ

さんから、建立の趣意など全く知らない記念碑があり、活を除きずっと千里山で過ごされた、画家の29大森翠今回は千里山に生まれ、フランス留学などの海外生 頂きました。調べて出来れば記事にして欲しいとのメール と手紙を

古くからずっと千里山に住む友人何人かにも聞きまなのですが、その存在は全く知りませんでした。所在地を調べると千二小入学時よく遊びに行った辺り所を地を調べると千二小入学時よく遊びに行った辺り記念碑の名前は「辰巳経世記念 婦人の家」です。

たが「婦人の家」の名前は耳にしたことがあっても、

小冊子を入手しました。を訪れ、記念碑の写真を撮り「辰巳経世小伝」というたまたま、今年六月千里山を訪れる機会があり、現辰巳経世氏については、ご存じありませんでした。



辰巳経世記念 婦人の家

なつ書

どなたでも自由に出入りし、 ある清水ちゑ氏の遺言により、「日本共産党」に寄贈されましたが、 次ページの銘文にある通り、 所在地 吹田市千里山西 碑を拝見することが出来ます。 元の敷地と建物は辰巳経世氏の妻で-里山西5-6-6



辰巳経世先生はマルクス主義経済学者として関西大学にて教鞭ををりり、その主義に徹し、生涯をささぐ。(1899-1942)時、苦難の時代たたかい半ばにしてやみ。1942年8月17日、この家に眠る。齢43才妻にして、友たるちるたは、その遺志を記念し、この家を"婦人の家"として贈らる 1965 年 11 月 21 日 辰巳経世先生 追悼会 発起人 これを建つ

業績を知 續を知ることが出来ます。碑にはめ込まれた銘文で辰巳経世氏 0 簡潔な履歴と

講義を行う一方で資本論を研究し、 、の労働運動に関与されたそうです。 ・義を行う一方で、労働者の地位向上のため大阪地区(本論を研究し、関大で当時として初めて「資本論」の 小伝に依れ し、関大で当時としては辰巳氏は関大卒業後、 7 ル クス 0

滅に導いた戦争を予言する論評も多数存在日本軍の中国侵略戦争、全世界を敵に回し Ĺ しま 日 本 す 。を

> 「治安維持法」で多数が検挙され、辰巳氏も何度も検挙されたそうです。幸い小林多喜二のように拷問で殺されることはありませんでしたが、当時は反対意見を権力で封殺するひどい時代でした。
> 最近「共謀罪」を「治安維持法」に対比して議論されていますが、決して史上最悪の法律「治安維持法」の表うに拷問で殺されることはありませんでしたが、当時は反対意見を権力で封殺するひどい時代でした。 当時は軍部方針に反対する意見に は、 悪名高 き

おります。一族としてこの地で永眠されたのではと、一族としてこの地で永眠されたのではと、三男として生まれ、旧姓名は「田中常世」、 居りました。 あ ń,

二〇〇 一○○一年 2号 亡き木牡何度も取り上げております。本誌では千二小の先輩、 二回生木村久夫氏 に 0 11

- 亡き木村久夫様を偲んで (二回生からのメ ツセ.
- $\frac{1}{0}$ 二二六七 年年 1 1 9 号号 「真実のわだつみ 二回生木村久夫先輩のこと
- 東京新聞文化部長加古陽治氏講演

部分を明らかにされました。部分があり、加古陽治氏は「真実のわだつみ」でそのこえ」に遺書が載りました。ただ、一部削除されたこれがあり、加古陽治氏は「真実のわだつみ」であり、加古のとのでは、一部には、一部には

もなかった」と残されました。の虚飾を取り去れば、我欲そのもののほかは何ものでしていた通り、やはり国を滅ぼしたやつであり、全てあり「日本の軍人、ことに陸軍の軍人は、私達が予測あり「日本の軍人、ことに陸軍が大嫌いで

すげ、 の責任を負わされ、B級戦犯として処刑されました。上等兵のままインド洋の孤島カーニコバル島で、上官でも楽の出来る「幹部候補生」になることを拒否し、する術はなく、応召後もせめてもの抵抗として少しする特はなく、応召後もせめてもの抵抗として少しする特はなく、応召後もせめてもの抵抗として少しする特別を忌避 きではない」と多数の投稿を頂きました。戦争の悲惨な記憶を持つ会員から「二度と戦争は、8号では「私達にとっての戦争」と題する特集を掲

幸い空襲を免れた千里山からも大阪の大火災がよく「大阪大空襲」の思い出を書かれました。19号で21大久保千尋さんが千里山から見えた

どうなったのか心を痛められました。す。小さな長靴が降ってきて、持ち主の子供の運命がになった様々なものが千里山にも降ってきたそうで大火災の炎で吹き上げられた上昇気流に乗って半焼け大火災の炎で吹き上げられた

無きことを唯々祈ります。

無きことを唯々祈ります。

なない、孫やその子の世代が二度と戦場に赴くことがをいにも戦争に狩り出されることなく、老境を迎えたをおご人が千里山に縁のあられたことを今一度想い、たお二人が千里山に縁のあられたことを今一度想い、たお二人が千里山に縁のあられたことを今一度想い、私達は、孫やその子の世代が最後となって、本当の戦争の悲惨さを 24 回 生

奥田 陽一記